

2023年8月8日

報道関係各位

NPO法人 国際言語学オリンピック日本委員会

国際言語学オリンピック2023・ブルガリア大会

日本代表のメダル獲得について

11回目の参加となることしの大会で、日本代表2チーム8名は、個人戦で最優秀解答賞1つ、金賞1つ（世界2位）、銀賞1つ、銅賞2つ、努力賞3つを獲得しました。

国際言語学オリンピック日本委員会（IOL日本委員会）は、7月24日（月）から28日（金）までブルガリアで開催された「国際言語学オリンピック2023（IOL2023）」に2チーム8名の日本代表選手を派遣しました。日本からの派遣はことしで12年目（11回目）となり、上記の通り個人戦において過去最高の結果を持ち帰りました。

弊委員会は、今後も国内予選大会の運営や国際大会への代表派遣を通じて、青少年を中心に広く言語学の楽しさや面白さを伝えてまいります。ご多用とは存じますが、是非とも取材をご検討いただければ幸いです。



画像: 閉会式・結果発表後の日本代表たち

■日本代表選手の結果一覧

氏名	所属校・学年	賞 (順位/点数)	備考
大宮 隆誠 (おおみや・りゅうせい)	灘高校2年 (兵庫県)	金賞 (2位/93.5点)	Team Samurai 16歳
加納 怜 (かのう・れい)	広島学院高校3年 (広島県)	銀賞 (21位/71.5点)	Team Samurai 18歳
安井 寛人 (やすい・ひろと)	慶應義塾普通部3年 (東京都)	銅賞 (53位/57.5点)	Team Ninja 14歳
塚田 智志 (つかだ・さとし)	筑波大附属駒場高校2年 (東京都)	銅賞 (64位/53.5点)	Team Ninja 16歳
宮路 仁魁 (みやじ・とかい)	青雲高等学校3年 (長崎県)	努力賞 (71位/50点)	Team Samurai 17歳
杉浦 佑月 (すぎうら・ゆづき)	渋谷教育学園渋谷高校2年 (東京都)	努力賞 (78位/47.5点)	Team Ninja 17歳
勢子 流叶 (せいし・るか)	並木中等教育学校3年 (茨城県)	努力賞 (94位/43.5点)	Team Ninja 17歳
虫明 穰二 (むしあき・じょうじ)	岡山操山高校1年 (岡山県)	なし	Team Samurai 16歳

※年齢は2023年7月25日時点

■大会の概要

国際言語学オリンピック (IOL) は、主に中等教育課程の生徒を対象とした国際科学オリンピックの一つです。2003年にスタートし、毎年夏に開催されています。ことしの大会はブルガリア南西部、ピリン山脈のふもとに位置し、冬はスキーリゾートとしても賑わう町・バンスコで7月下旬に開催され、日本を含む38の国と地域から51チーム、計205名が参加しました。

当大会が主眼に置くのは、言語学の楽しさ・面白さを伝え、中高生や一般の方の言語学・言語・言語多様性への関心を高めることです。言語学オリンピックの問題は、実際の言語研究で行われる分析に似ていて、「初めて見る言語のデータから隠れた法則を解き明かす」というものです。謎解きやパズルのように、分析力、情報処理能力、論理的思考、試行錯誤する力が求められます (下記例題を参照)。

例題 以下はインドネシア語の単語とその日本語訳です。

インドネシア語	日本語訳	インドネシア語	日本語訳
jalan	道	keringatan	汗びっしょり
berjalan	歩く	nafas	息
berkeringat	汗をかく	duri	とげ

(a) keringat を日本語に訳してください。

(b) 「息をする」「とげまみれ」をそれぞれインドネシア語に訳してください。

▶▶▶答えは次のページ

答え

(a) keringat : 汗

(b1) 息をする : bernafas

(b2) とげまみれ : durian (=ドリアンのこと)

ber- をつけると動詞になる。-an をつけると「～だらけ」という意味になる。

問題を解くにあたり、「暗記力」は必要ありません。答案を書くために必要な情報はすべて問題の中に隠されています。語学試験や弁論大会とは異なり、英語やその他特定の言語を話したり書いたりするための運用能力は求められません。むしろ、偶然その言語を知っていることがないよう、極めて認知度の低い言語を題材にした問題が出題されます。IOL2023にはグアサカパンシンカ語や海岸部マリンド語が出題されました（詳細は「ことしの問題について」をご覧ください）。

日本代表は、代表決定から国際大会までの4カ月の間、他の日本代表や過去大会経験者との合同練習会を計70時間、アジアの各国代表との合同練習会を計15時間、さらに自主練習を積んで、国際大会に備えました。練習会では、過去問を用いて、初めて見る言語のデータからその言語が持つ法則性を推論によって解き明かし、法則性を表やフローチャートを用いて表現する訓練を積みました。さらに、言語学が培ってきた言語の分析方法を言語学専攻の大学院生から学びました。

中学や高校では言語学に触れる機会がないため、日本代表であっても多くは言語学オリンピックを知るまでは「言語に潜む法則性を見つける」課題に取り組んだ経験がほとんどありません。それでも日本代表たちは国内予選への挑戦や問題演習、講義を通じて、努力を積み、言語の法則性を見出す推論能力を身に着け、高めていきました。

■賞の授与基準

IOLのメダルは全競技者数の上位約3割に授与され、金:銀:銅の受賞者の比率がおおむね1:2:3になるよう調整されます。

メダルには届かなくても、平均点以上の点数を獲得した競技者には、努力賞（Honourable Mention）が授与されます。

最優秀解答賞（Best Solution Award）は個人戦で問題ごとに選ばれ、各問題の上位1～3位で、満点かそれに近いエレガントな答案を提出し、想定解を超えた問題の本質的理解を示した競技者に授与されます。

ことしの個人戦では、最高点が96.5点、金賞ボーダーが80.5点、銀賞ボーダーが62.5点、銅賞ボーダーが51点、努力賞ボーダー（＝平均点）が42.5点でした。また、金賞は12人、銀賞は24人、銅賞は32人、努力賞は29人に授与されました。

■ことしの問題について

ことしの問題は過去問としてすでに一般公開されています:

<https://ioling.org/problems/2023/>

第1問はグアサカパンシンカ語（かつて中米のグアテマラの一部で話されていたシンカ語族の言語）の動詞形の問題が出題されました。55個の動詞を見て、どの部分が人称、時制、などを表しているか分析する問題です。条件によって子音や母音が微妙に替わることもあり、一筋縄ではいかない難問ですが、日本チームの大宮さんはこの問題を完璧に解き明かし、最優秀解答賞を受賞しました。日本チームの平均は13.3点で、全体平均の11.3点を上回った他、努力賞の勢子さんが16点を取りました。

第2問はアプリーナ語（ブラジルのアマゾン北西部の一部で話されているアラワク語族の言語）の文の問題が出題されました。20個の文を見て語順や語の内部構造を分析する問題です。「私の家」と「私の血」で「～の」にあたる表現が異なるなど、日本語や英語的発想を相対化して柔軟に考えなければ解けない問題でしたが、日本チームは平均13.8点を取り、全体平均9.7点を大きく上回りました。

第3問は海岸部マリンド語（インドネシアの南パプア州の一部で話されているアニム語族の言語）の動詞形の問題が出題されました。22個の動詞形を見て、どの部分が人称や日本語訳の「ああ」「やれ」「本当に」などを表しているか分析する問題です。動詞の中に最大6,7個の要素が出てくるので内部構造の分析が困難ですが、日本チームは平均11.9点で全体平均の8.8点を大きく上回りました。

第4問は平原クリー語（カナダ南部の一部で話されているアルギック語族の言語）の動詞形の問題が出題されました。25の動詞を見て人称を表すシステムを解き明かす問題です。動詞形の中に訳の「私が」「君が」などに1対1で対応する要素がないので、主語と目的語の両方が1つの要素で表されるという仮説を立てて、主語6種と目的語6種からなる6×6の表を作って俯瞰しながら、その仮説を修正して法則を見出す必要があります。与えられたデータをただ見比べているだけでは解けず、実際の研究のように仮説立案とその地道な検証というプロセスが功を成す難しい問題でしたが、日本チームは平均9.6点で全体平均の8.7点を上回ったほか、努力賞の宮路さんが16.5点、杉浦さんが14.5点を取りました。

第5問はスピレ語（マリとコートジボワールの一部で話されている大西洋・コンゴ語族の言語）の数の表現の問題が出題されました。数の表現を構造的に分解するとともに、10進法ではない数の表し方をしていることに気づかなければならない問題です。日本語や英語とは全く発想の異なる体系で、全体平均4.7点の難問でしたが、日本チームは平均8.3点を取り、うち3人（大宮さん、加納さん、安井さん）が満点でした。

■その他

風間伸次郎（監修）、国際言語学オリンピック日本委員会著『パズルで解く世界の言語 言語学オリンピックへの招待』（研究社、2023年6月20日刊行）が発売中です。入門レベルの問題も含め45問の問題と解説、コラムを掲載。謎解きを楽しみつつ世界の言語に触れられます。

次の日本言語学オリンピック（JOL2024）が2023年年末にオンラインで開催予定です。誰でもご参加いただけます。参加資格に制限がないオープン枠（昨年は115名が応募）と、20歳未満かつ

大学未入学者向けの選抜枠（昨年は490名が応募）があります。受験料は3000円です。腕試しにいかがでしょうか？

言語学オリンピックに関する一般的なご案内は、弊委員会公式サイト iolingjapan.org に掲載しております。サイト上のコンテンツはライセンスCC-BYの範囲内で自由にご利用いただけます。

また、弊委員会の公式 SNS アカウント（Twitter: [@iolingjapan](https://twitter.com/iolingjapan)、Facebook: <https://www.facebook.com/iolingjapan/>、YouTube: <https://m.youtube.com/@iolingjapan>）もぜひご確認ください。

■発信元

国際言語学オリンピック日本委員会 委員長 風間伸次郎（東京外国語大学 教授）

JOL | 国際言語学オリンピック
日本委員会

お問い合わせ先:
国際言語学オリンピック日本委員会
事務局長 小林 剛士
メール: jol@iolingjapan.org